

宇宙開発戦略本部 宇宙開発戦略専門調査会 第20回会合
(議事要旨)

1. 日時 平成23年11月30日(水) 8:00-9:40

2. 場所 内閣府本府5階特別会議室

3. 議事概要

(1) 開会

会議冒頭、古川宇宙開発担当大臣より次のとおり挨拶があった。

○【古川大臣】 皆様方には大変早朝からお集まり頂き、感謝申し上げます。前回の専門調査会では、内閣府の主な業務、宇宙政策委員会の設立、更には JAXA の在り方、宇宙開発委員会の廃止という4つの論点について御議論頂いたと伺っている。宇宙政策委員会の設立と宇宙開発委員会の廃止に関しては、概ね基本的な方向性について、御意見の一致を見ていると伺っているが、内閣府の業務の細目並びに JAXA の在り方に関しては、議論が残されていると伺っている。今日は、事務局から「宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制の構築について」の報告書の骨子案を説明し、御議論頂くので、各々の論点について、更に具体的な詰めの議論、検討をお願いできればと思う。皆様方におかれては、各省庁の利害を越えて、ベストな宇宙開発・利用の体制を構築できるよう、年末に向けて御多用とは存じますが、是非ともしっかり御議論を頂ければと思う。特に、この宇宙分野は、野田総理も人一倍思いの深い分野であり、ここでおまとめ頂いたものは最優先で取り上げられると思うので、皆様方からすばらしい御提言を頂きますことを心よりお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

(古川大臣退室)

(2) 宇宙空間の開発利用の推進体制の構築について

山川宇宙開発戦略本部事務局長より、資料1、資料2に基づき報告があり、続いて、外務省、文部科学省、経済産業省から資料5に基づき説明があった。これを受けて委員による議論が行われた。

[議事要旨]

事務局から説明された「宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制について」(専門調査会報告書骨子案)について以下の点については出席した委員の意見の一致を見た。

- ・宇宙開発委員会を廃止すべきこと。
- ・JAXAの所管について、文部科学省に加え、内閣府と経済産業省が主務省又は主務

大臣という形で関与すべきこと。

【議事の詳細】

主な質疑応答は以下の通り。(○は委員発言、●は事務局発言)

- 【葛西座長】資料1の項目毎に議論を進めたい。また、本ペーパーでカバーされていない点については最後に意見を頂きたい。まず、戦略的な推進体制構築の視点に関し、御意見、御質問のある方はお願いしたい。本項目については、資料5のとおり外務省からも意見が出ており、その点に関しても御意見を頂ければと思う。佃委員が早目に御退席ということなので、その前に何か御意見があれば。
- 【佃座長代理】日本航空宇宙工業会の今年の提言をお配りしているのでご覧頂きたい。産業界の意見としてのこの提言を御紹介したい。新宇宙開発体制の構築という点を書いてある。1つは、JAXA法の改正。これは今までも議論があったように、宇宙基本法で産業振興と安全保障がうたわれており、基本法にJAXA法が合うように改正すべきではないかという提言である。JAXAのあり方として、資料1には「平和目的規定を宇宙基本法の規定と共通化すべき」と書いてあるが、安全保障のみならず産業振興ということを加えて頂ければいい。もう一点、産業振興と安全保障という新たな役割を果たすために、組織体制としても見直すことが必要ということで、是非、JAXAの運営に産業官庁等々が関与できる体制、新しい役割に相応する体制をお願いしたい。この2点について、産業界の提言としてお願いしているので、是非、御配慮頂きたい。
- 【松本委員】今の佃委員のお話と関係することを申し上げたい。日本の宇宙開発がどこからスタートしたかと思えば、宇宙科学技術からスタートしたことは間違いない。今御指摘の新たな視点も重要であるが、この資料のI(2)に「宇宙基本法は」と書かれていて、2行目に通信、放送、気象の分野における宇宙空間の利用が実用化段階に移行したと書いてあるが、宇宙科学利用はどこにも書かれていない。少しこの文章は物足りない。重要な点が抜けている気がする。従って、通信、放送、気象の前後に、宇宙科学分野を是非入れて頂きたい。これは、先陣を切った宇宙科学分野の方々に対する敬意の表明でもあろうかと思う。また、測位、リモートセンシングなどその利用が複数省庁にまたがると書かれているが、いまの佃委員の意見と同じく、もっと幅広く宇宙産業の振興というような言葉が入るよう工夫した方がいいのではないか。例えば、宇宙の産業利用などと具体的に書けばはっきりする。個人的な思いを申し上げますと、宇宙エネルギー利用等の宇宙産業、と先ほどの佃委員提出資料にも書いてあるが、そういうエネルギー利用もあるので、それを踏まえ、ここは宇宙産業利用の重要性を将来の方向性として書き込んだ方がいいのではないか。JAXAの在り方であるが、内閣府が司令塔の役割を果たすということは大変結構なことだと思う。主務官庁という話が行政的にはあるかと思うが、宇宙産業振興ということは、宇宙科学にも及ぶ大変重要な国の施策であり、従来の文部科学省は当然のこととして、それに加えて産業の省庁が、ここでは経済産業省だと

思うが、主務大臣として参加するというのを私は方向として打ち出した方がいいのではないかと思う。

- 【上杉委員】主務大臣ということか。
- 【松本委員】主務省か主務大臣か法律用語は分からないが、経済産業省が入るということは重要だろうと思う。
- 【上杉委員】I（3）で、JAXAが実行部隊、執行機関と書かれている。これまで、日本全体としての宇宙開発が技術開発や研究開発が主であったことに対し、これから宇宙産業も含めて大事であるという意味は分かるが、逆に、全体を通して技術開発ということとどこが責任を持ってやっていくのかが見えなくなっている。例えば（3）のところで、技術力と設備を政府の宇宙政策全体のために活用する、宇宙開発を技術で支える実行部隊とあるが、技術は常に不断の努力で開発も続けていかないとだめになってしまうということは明らかなことである。JAXAの技術力と設備について、既存のものがあって、それを活用するというのも勿論必要であるが、技術開発あるいは研究開発をすることをどこが責任を持ってやっていくかということが、大変見えにくくなっている。極端に言えば、既にあるものを実用化するだけ、そう読めないこともない。その辺をどこかでしっかり記述するなり、考え方をまとめて頂きたい。
- 【中須賀委員】今、上杉先生が指摘された視点は非常に大事だと思う。技術開発の先を伸ばしていかなければいけないということとどこかに書かなければいけない。それはJAXAだけの仕事ではなく、オールジャパン体制で大学等も含めて非常にしっかり技術開発戦略を立て、それを実行していく組織がいるだろうと考える。従って、JAXAだけではなく、大学等を含めたオールジャパンとしての技術開発及び研究の体制の整備が必要であるということを書いて頂ければいいのではないか。
- 【葛西座長】それでは、一通りの意見が出そろったので、次の項目に移りたい。戦略的な推進体制構築の視点については、本ペーパーにつき、御議論・御意見が出なかった点については委員の皆様の御異議がないということによろしいか。（異議なし）
- 【葛西座長】次に、「具体的な体制のあり方」の内閣府の業務に関して、御意見、御質問のある方はお願いしたい。本項目については、資料5のとおり、外務省及び文部科学省から意見が出ている。その点も含め御意見を頂ければと思う。
- 【薬師寺委員】1番大事なのはJAXAのあり方をどうするかということである。JAXAは、出自からいうと、行革の中で、科学技術庁の中に宇宙開発委員会という大きいものがあり、総理大臣が関与していたものが、省庁削減で文部科学省になり、旧科技庁の人もそこでやっている。それが非常に日本の宇宙戦略を弱めている。JAXAは実行部隊だと言っても、企画というか日本の宇宙政策をやっている。それは旧科技庁の人たちもよく分かっている。従って、上に政策を決めるところがなくなっている。それが日本の宇宙予算が減っていった最大の理由であると思う。そういう中で、私は、国家基幹技術とし

て宇宙というものをやっていくべきと思う。であるから、そういう形で制度改革を行い、内閣府の中に司令塔機能を設ける。ロケットに日の丸ではなくスリーダイヤをつけるよう変えたように、産業振興の面も非常に重要になってきているが、今の主務官庁には行革のひずみが出ている。内閣府は、JAXAの企画なりに、日本の司令塔機能としてきちんと関与し、それがJAXAの発展につながる。JAXAをつぶすとかではない。JAXAは実際に頑張っていて、優秀な人間が切磋琢磨して技術開発を、産業界と一緒にやっている。そういうことを明確にして、内閣府の宇宙政策委員会の中に技術部会もつくり、そういう中で見ていく。それは日本の国家戦略で、大学も含めた戦略としてやっていく。今や、文部科学省も経済産業省も戦っていないで、内閣府の中で議論をしてやっていく。私は文化系で法律もよく知っているが、主務官庁とか、分担管理の話は余り言わないで、きちんとやっていけばいい。日本の宇宙戦略の体制は、内閣府が関与することで予算も増えてくる。今のまま自分の権益を守るようにやっていたらだめであり、この委員会の設置ということである。文部科学省も宇宙開発委員会を廃止できなかった。行革の怨念がずっとあるから、それはできなかった。それを我々は変えていく。文部科学省も産業振興も入れていくと言っているわけだから、それは我々のところでやっていく。

- 【中須賀委員】宇宙の方向性は随分変わってきた。科学技術中心から産業振興もやっていけないといけない時代に。宇宙開発の中で動いている今の我々の大きな危機感は、3000億程度の官需だとなかなか宇宙開発が回っていかないということ。企業も、運営が成り立たないのでどんどん宇宙開発への関与をやめ始めている、国際競争力も落ちてきている、という点である。プラス α で2000億ないし3000億程度の民需が生まれないと、日本として自在性を持った宇宙開発をやっていくだけの産業基盤が維持できないという危機感が、もともとの今回の検討の大きな動機であったはず。これまでやってきたことが悪かったのではなく、これまで科学技術をしっかりやってきたことはとても大事だったのだが、いわゆるフロントランナーになった現在においては、世界中の状況を見ながら戦略を立て、産業振興をやらなければならない、海外展開もやっていかなければいけないという状況に変わったということである。それに応じた、それができる体制をつくらなければならない。その観点から、科学技術政策全体の視点から宇宙開発の在り方を検討する文科省と、産業政策全体の視点の中で宇宙を考える経産省が、手に手を取って宇宙開発を回していかななくてはいけない。省庁の権益がどうだというような状況ではない。そのために、産業振興をJAXAの法律の中に目的としてきっちり入れる。経産省もJAXAを管轄する組織としてしっかりと入る。それを束ねるものとして、さらに上で内閣府がしっかりかじ取りしていく。こういう体制を作ることが、これからの宇宙にとって非常に大事ではないか。
- 【松井座長代理】この2年ほど、宇宙政策の有識者会議やこの専門調査会に関わり、日本の宇宙政策の推進のための様々な議論に関わってきたが、基本的に、今回まとめられた推進体制の原案は、そういう方向性に非常によく沿ったものであると理解しているし、

是非、基本的にこういう方向でやって頂きたい。その中で、いろいろ危惧される問題が、各省庁の意見に出ている。1つは、司令塔としての中立性に懸念が出ているようであるが、宇宙政策委員会が基本的には司令塔機能のかなり重要な部分を担うと考えると、危惧されるような問題は、割と独立性の高い宇宙政策委員会というものが作られ、そこでやっていく以上は、余り心配の無いのではないか。実施機能と司令塔機能が分離すべきという点も、当然そこに含まれており、問題にならないのではないか。その上で、いろいろ出ている議論を、もう少し具体的にどういう問題かと整理すると、科学技術の研究開発をこれからどうしていくのが、私は非常に重要なことだと思う。現在、JAXAの中にISAS、宇宙科学研究所があって、基本的にここは研究開発をやる場所であるが、JAXAに統合された後、何か元気がなくなっている。そういう状況が問題で、ここをしっかりと強化していけば、危惧されているような問題は解決されるし、大学の共同利用機関であるので、大学と共同して直すべき点も多々あると思うが、基本的にはそれを充実していけば済むのではないか。研究開発に関してはJAXA全体の問題とは切り離して議論すべきだと思う。現在すぐにどうという話ではないが、防衛、安全保障、産業基盤、研究開発というものを全部JAXAが今までと同じようにやっていくのはそもそも無理があり、いずれ、方向性として宇宙庁的な一元的な組織ができれば、そういうところにJAXAが移管していくことは必然的な流れ。その時には、宇宙科学研究所のようなものは独立させて文科省に残るとか、研究開発の部分は国にとって非常に重要な部分であるから、そこをどう強化していくか、そういう議論の中で、宇宙科学研究所をどうするかという議論に集約していけばいいのではないか。従って、JAXA全体の議論の中に研究開発の問題を入れるべきだという考え方を私はとらない。基本的にここにまとめられているような方向性でやっていくべきで、JAXAの主務官庁というか、主たるところも本当は文科省ではなくて、むしろ内閣府であるべき。内閣府が入らないで、今までと同じように文科省だけでやるというのは私には理解しがたい。基本的には今までと同じようにやりたいという主張にしか思えない。それを変えようというのがこの調査会での議論であった。そう考えると、ここで書いてあることはそれほど矛盾していない。細かなことは分からないが、当然、外交的な案件もかなりの部分で内閣府が関わらざるを得ないのではないかと思うので、それはよく関係省庁と相談して頂き、文言等は改めればよいと思う。基本的な考え方、方向性に関しては、私はこれで十分だと思う。

- 【上杉委員】宇宙科学研究所について独立性、自主性を尊重するということが書かれているが、ここは書いてあるだけで終わりかねない気がする。文言だけになっている。提案であるが、例えば今の指摘のようなことを具体化することを、早急に検討すべきであるというような文言を、最後の3.(6)のところに付け加えて頂くということで、実効性が生じるのではないか。その方向で検討して頂きたい。
- 【松本委員】前半に出た御意見と関係するが、少し議論をして頂きたいのは、3.(3)基本的な方向。内閣府は宇宙政策の司令塔、ここは大方御意見が一致していると思うが、

文部科学省等と共に云々とあるが、産業振興を入れる方向で進むのであれば、主務省なのか主務大臣なのか表現法はよく分からないが、産業振興を2本柱の1つとして今後やっていくのであれば、文部科学省、経済産業省等とする。主務省を経由せずに直接云々というのは、これは非常にデリケートな表現で、意見が各省庁から出ていたと思うが、この議論は少し深めて頂きたい。

- 【中須賀委員】海外への対応、海外戦略に関しては、今、世界中で、各国を巻き込んだ国際的なプロジェクト立案の競争が起きていて、いわゆる頭取り合戦が始まっている。自分が中心になるから一緒に組んでやろうという競争が起こっている。その競争に日本がなかなか参加できていない状況があり危機感を覚える。もう一つ、キャパビル支援も含めたパッケージ戦略として、海外に日本の技術あるいは衛星・ロケット等を売り込んでいく戦略は重要になってくる。それらに関し、各案件ごとに複数省庁を含み、JAXAも含んだオールジャパンのタスクフォースを組んでいく必要がある。そういう体制ができる組織づくりを是非お願いしたい。海外といろいろお付き合いする中で、海外でなぜあんなにどんどん外に出ていけるのか、日本はなぜ頭取り合戦に参加できないのかという危機感があり、この辺を御検討頂きたい。また、JAXAの果たすべき役割を少し考えると、キャッチアップ時代からフロントランナーになった今、こういう技術ができればできる、こう利用が広がるということを見極めて、利用自体をつくり出すという観点でも世界と競争していかなければいけない。それを考えると、JAXAに技術があることは勿論必要だが、それだけではなく、例えば、産業振興や利用ニーズの開拓、海外の中で頭取り合戦をしていく、そういう展開のアイディアと戦略づくりなど今後の日本の宇宙開発で注力すべき作業に力を発揮して頂く必要がある。内閣府がこれらの作業の中心になるとしても、やはり常時プロフェッショナルな人がたくさんいる中で初めてできること。JAXAには、衛星やロケットづくり、その技術を維持するだけでなく、多方面にわたりプロフェッショナルとしてこれらの作業においても力を発揮して頂いて頂けるような体制をお願いしたい。
- 【片瀬審議官】3.(4)については是非ここで御議論頂きたいが、これをドラフトさせて頂いた背景は、独立行政法人というものは、建前上、中期目標の下でしっかり計画を定めた上で、あとは自主独立で活動するということが基本になっている。そういう意味で、産業界、各官庁がJAXAと創意工夫でいろいろな活動を展開していくということが適切ではないかと思っているが、現状では、それが文部科学省を通じてしか協議できない状況にあり、これをどうするか。そもそも、文部科学省に協議するというのは法律上の根拠も恐らく無いのではないかと思う。それは文部科学省に御説明頂きたいとは思いますが、仮に法律上の根拠がなければ、直接やるのが適切ではないかと思う。
- 【薬師寺委員】法律論から言うと、宇宙政策委員会が内閣府にできて、そこが軸に色々決めるわけで、その中で各省はそこと連絡をとる。それが望ましい。この書き方は法律的に今までの功績を台無しにしているような書き方をしており、前の文章と整合性をと

るように書いた方がいい。外務省は上位機関として何とか会議というが、何もやらない会議もたくさんある。会議の人は、会議のメンバーになるだけで何もやらない人もたくさんいる。例えば、国会同意人事などうるさいことを言うわけであるが、何もやらない、会議のメンバーになってもだめな人もたくさんいる。外務省はそういうことを広く知っているはず。従って、そういう議論はしないで、内閣府の宇宙政策委員会が、きちんと非常勤の人が、日本の戦略を決める。こういうことで十分と思う。

- 【文部科学省】先ほどの事務局の方から協議の件について法的な話があったけれども、法的には、協議を主務大臣とすると法文に書かれているわけではないが、JAXA を所管する役所として JAXA について何が行われているかを十分に把握する必要があるので、このような意見を述べたもの。先ほど御説明したが、司令塔機能、司令塔が定める政府全体の基本計画に基づいて、今後、JAXA の中期目標、これは独法通則法上定める目標であるが、それを十分踏まえつつ定めるとしており、政府全体の宇宙政策を JAXA の業務に十分反映できると考えている。細かい点だが、先ほどの事務側の説明の中で、JAXA の知財が民間に行かないという説明があったが、請負契約の場合は民間の方の知財であり、JAXA が知財を囲っているものではない。また、衛星バスがシリーズ化していないという説明もあったが、実際には、衛星バスはシリーズ化して作っているので、この点を踏まえて御議論頂ければと思う。
- 【片瀬審議官】薬師寺委員から（４）の書き方を御指摘頂いたので十分踏まえて直したいと思う。今、文部科学省からの説明にあるように、把握したい、ということであれば、それは事後的に JAXA から、主務省がだれかということも今日御議論を頂いたけれども、そこが日ごろの連絡調整の中で確保するということがいい。文部科学省を通じてすべて協議せよというのは JAXA の創意工夫をそぐことになる。
- 【葛西座長】今日の意見によれば、主務省というのは、JAXA の場合、幾つかのところ、複数になるということか。
- 【片瀬審議官】主務省と主務大臣というコンセプトがあり、最大の違いは、主務省は独立行政法人の評価をする。主務大臣は主務省の行う評価に対して意見を言う。主務省が中心で、主務大臣は関与をするが、主務省よりはその点で関与が弱い。もう一つは、独法の立て方によるが、人事権は少なくとも主務省は持つが、主務大臣は持っていない場合がある。例えば JAXA については、総務大臣は主務大臣であるが、役員任命の人事権は持っていない。独法通則法上は主務大臣が人事権を持つという立て方も可能である。
- 【薬師寺委員】独立行政法人は中期目標を作らなければいけない。それを評価するのは主管の省。独法全体としては、総務省が各々評価された全体を評価するという法律になる。従って、中期目標とか中期計画を作る、すべての独法はそうなっている。総務省が全体を見る。そういう二重構造になっている。それはばかげていると思うが、総務省の方が上とか、総務省の委員が主管省の委員よりも上とか、それも言われている。そういう中期目標的な法律論は止めよう。そんなことをやっているから日本の宇宙政策はだめ

になっている。主務大臣とか経産大臣というのは、経産省に関する分担管理を内閣の中でただやっているだけである。みな国務大臣である。通俗的に経産大臣と言っているだけの話。日本の宇宙政策に関してそういう法律論はやめよう。

○【葛西座長】いろいろ意見が出たが、それらの議論を踏まえて事務局でまとめてもらいたい。

●【片瀬審議官】少し整理させて頂きたい。この主務省のところについては、主務大臣か主務省かは別として、文部科学省、内閣府、経済産業省を明示するというコンセンサスがこの場ではできたということで作業を進めてよろしいか。（異議なし）

○【葛西座長】そうすればいい。JAXA の活用という意味では十分である。意見は大体頂いたので、それらの意見を踏まえ、今のような形で事務局で調整をして頂きたい。御意見のなかった点については原案でよろしいか。（異議なし）

○【葛西座長】それでは次の論点に移る。宇宙政策委員会の設置に関し、御意見、御質問のある方はお願いしたい。本項目に関しては、資料5のとおり外務省及び文部科学省から意見が出ているので、その点も含めて御意見を頂きたい。

○【上杉委員】この宇宙政策委員会ができて、これが実質的というか、司令塔的な形で進められるということになると思うが、大変前進するということがよいと思う。但し、前回も申し上げたが、内閣府の中に、ある意味では実施部隊と司令塔的なところが並立することになると思う。司令塔機能の公正中立をいかに保つか、それを守るようなしっかりした形の仕組みにして頂きたい。8条審議会ということで仕方ないのかもしれないが、非常勤メンバーである。悪い言い方をすると、たまに開かれて何か審議をしてという形ではよろしくない。実質的に司令塔機能が発揮できるようにして頂きたい。本来、常勤の方にやって頂くのがよいと思う。その辺は法律的にどうか分からないが、そう希望する。ただ、「勸告」といった強い権限を持つということで、実質的に機能するということがあればよいとも思う。先ほど、安全保障に関して権限はないのではないかと、ということであったが、例外規定などで外すとか、やりようがあるのではないかと。

●【片瀬審議官】宇宙政策委員会と事務方が相まって全体の司令塔として機能するという制度設計になっており、そういう観点からは、御指摘のように宇宙政策委員会が稀にしか開かれないということが無いよう、きちんと実効的に機能するよう運営していくことが重要である。今、非常勤ということで原案を掲げさせて頂いている理由は、実効的に機能するためにも、有効に機能するためにやはり委員に最適な方がなって頂くよう委員の選択の幅を広げたい。常勤になるとその幅が狭められるという考えもあり非常勤と考えている。安全保障については、宇宙政策の中には安全保障のための宇宙の利用・開発ということも当然含まれており、それは宇宙基本法でも明示されている。そういう除外規定は書かずに、宇宙政策、宇宙の開発・利用と書くだけで、そこには安全保障も含まれると整理している。

- 【中須賀委員】今の宇宙政策委員会の件について、その下に幾つか部会を置き、いろいろ調査、審議すると書いてある。これは確実に必要だと思うが、まず大事なものは、政策戦略を立てるためには情報がなくてはだめで、情報を分析する組織が要ということ。今だと、シンクタンクに頼んで海外の学会情報であるとか、ホームページ等の情報を集めてそれを基に様々な政策を立てている。これだと全く不足。世界中を飛び回り、今何が行われているのか、各国は裏で何を考えているのか、しっかりと情報を集め、それを分析し、日本はどのような戦略で世界で勝負していくのか考えていく組織が要る。それは恐らく片手間ではできない。今、宇宙政策委員会を常勤にするかという話があったが、それと同時に、部会の方でも、例えば大学の先生を時間借りして、ある問題が起こった時に対処療法的に検討をやって頂くのではなく、部会にプロフェッショナルな能力を培っていくことが非常に大事だと思う。その能力が今まだ十分でないのであれば、その人材を育成しなければならない。それが長期的に見た時の日本の宇宙の競争力の強さにつながっていく。この部会を単なる普通の委員会というのではなく、しっかりとした人材育成も含めて恒常的な組織として作るということが非常に大事だと思う。ここを是非御検討頂ければと思う。
- 【松本委員】この宇宙政策委員会の人選は最も重要。選ばれた方々は宇宙戦略を考える。戦術の細かいものを議論するのではなく、戦略をしっかりとやって頂くという意味から大変重要な位置づけになっていると思う。大まかな国の方向、戦略の方向ということを、ここでしっかり決めて頂き、その具体的な作業については今、中須賀委員から出たように、部会組織をしっかりする。戦略の方向を打ち出しても、基盤となるデータとか作業ができなければ、だんだんと役所の仕事の請負になってしまうという気がする。そういう意味で、部会とセットでしっかりやるという今の意見には全く賛成。本委員会は戦略を検討して頂きたい。大筋をしっかり議論して頂きたい。この宇宙開発戦略専門調査会もそういう目的であったはずなのであるが、だんだん細かいところに入っているような気がするので、是非よろしくお願ひしたい。
- 【薬師寺委員】宇宙政策委員会の中で、是非国民の皆さんに、宇宙が、日本が持つ自在な能力として非常に重要であり、色々なことをやっているのだと、宇宙というものには夢があって、日本の持っている科学技術の非常に高い能力の部分だということ常を説明してほしい。どうしても宇宙というと違う議論になり、遠くに行って帰っただけで皆喜んでいるので、そういうものだけではなく、日ごろ国民に対して訴えかける。これは予算を増やしていく上で重要である。是非ともそういう機能も入れて頂きたい。
- 【上杉委員】部会の件であるが、例えば、宇宙活動法が制定された場合には技術部会を置いて対処すると書いてある。これは大事なことだと思うが、元々専門調査会の中で議論されていた時に、宇宙産業を進めるという目的の、当時の名前は宇宙開発利用推進連絡会議を置くということが書いてあったと思う。これはいわゆるニーズを吸い上げ、それを具体的には JAXA になろうかと思うが、そこで開発し、シームレスに産業化へつな

げていくというための連絡会議というものであった。宇宙政策委員会の下に部会に作る時には、例えば宇宙開発利用推進連絡部会というようなものを是非置いて頂く必要があるのではないか。

- 【松井座長代理】私も宇宙政策委員会というのは非常に重要な役割を担う委員会になるかと思う。今まで、例えば総合科学技術会議でも何でもいいが、議員になってもほとんど自分の手足がなく、省庁から来た人が情報を挙げて判断するという格好では余り意味がない。やはり情報、海外も含めてある程度非常勤とはいえ自分で判断できるだけの情報を収集、調査できる体制を考えないと、本当の司令塔機能はできない。その辺は、今までにないものを作らなければいけないと思うので大変だと思うが、恐らくこれからの日本の、それは文科省が色々と言っているように科学技術政策云々という話もあるが、それも全く同様で、委員になるということはそれだけ責任があるということで、その情報をきちんと自分で収集して判断に使えるように、新しい全くこれまでにないような委員会を作るという気持ちで考えていかないと、従来と同じような格好だとなかなか機能しないかもしれない。先ほど委員の人選が非常に重要だと言ったが、これが発足したときには、委員の人選でこれからの日本の方向が決まるぐらい重要なことで、これがうまく機能すればそれ以降ある程度それを先例として進んでいくと思う。従って、よく準備してスタートを切らないと、今より悪くなるという可能性もあると思う。その辺は十分検討し、ここに書いてある文案はこれでいいが、細かなことを考える時には、ここで出ているような議論はしっかりそこに含み込むようにして頂きたい。
- 【葛西座長】8条委員会は諮問機関であり、本質的には司令塔ではない。上にいる者によっては全く機能しないということになるが、そうならないか。
- 【片瀬審議官】我々が考えているのは、司令塔というのは、内閣府に新たに設置される部門と、内閣府の宇宙政策委員会が、それぞれ専門家の役割と恐らくは行政機関の中心の役割になる。それがきちんとかみ合って、全体としてトップダウンの政策決定プロセスを実現していくという考え方になっているので、おっしゃるように宇宙政策委員会の役割は非常に大きいと思う。人選についても今のような御指摘がコンセンサスであれば、そういう意見であるということはこの調査会の提言に書くことは可能だと思う。
- 【葛西座長】常勤というのは、事務局は常勤かもしれないが、委員は発言に重みのある見識のある人を幅広く選ぶということが重要である。その下に専門部会を作るが、作業部会というのは常勤がやるのか。それとも委員会と同じような形になるか。
- 【片瀬審議官】基本的にはすべて非常勤と思うが、常設にすることは可能だと思う。
- 【葛西座長】大体御意見が出そろったので、色々頂いた意見をベースに調整し、御意見の出なかったところは原案了承ということでまとめさせて頂きたい。
- 【葛西座長】次に宇宙開発委員会の廃止について御意見を賜りたい。
- 【松井座長代理】私は、遅きに失したというか、既に行われるべきことが今まで延びて

きたこと自体が驚きで、ここに書かれていることは当然だと思う。これは早急に廃止すべき。二重的な政策遂行で、政府の司令塔機能が非常にあいまいになっていた。

- 【葛西座長】 この点についてはよろしいか。(異議なし)

- 【葛西座長】 それでは、事務局ペーパーの中に含まれない点について何か御意見があれば自由にお伺いしたい。
- 【上杉委員】 3 (5) でプロジェクトの企画立案まで云々とあるが、わざわざ「JAXAではなく」と書いてある。これも微妙な言い方であるが、JAXA は企画立案をするところではないとここで宣言しているように見える。勿論、内閣府として全体で企画立案をしていくのはいいが、これを書いてしまうと JAXA は本当に元気がなくなってしまう。立案というか原案のようなものは JAXA から出てきてもよいと思うが、ここにわざわざ「JAXA ではなく」と書かなくてもいいのではないか。
- 【片瀬審議官】 NASA は政策当局の側面とプロジェクト実施機関という両面があり、現状では実態としては両面合わせて JAXA が事実上行っているので、それを変更するということを明確にしたかったということ。内容について御異議がなければ、今の御指摘を踏まえ、工夫したいと思う。
- 【松井座長代理】 私は、今、移行期間を経て体制が変わる時に一番危惧しているのは、先ほど言った科学技術あるいは科学の基礎研究に係るところで、宇宙科学研究所をどうするかという問題である。早急に方針を決めないと、曖昧なまま、1年、2年、今のような体制でやると、現状より悪くなる可能性がある。科学の部分はかなりボトムアップ的な議論が必要で、その意味では企画立案は重要なわけで、JAXA が執行機関とするとそういう機能が全く失われてしまう恐れがある。是非ここで方向性くらいははっきりと示しておくことが必要。ロードマップとして、ISAS はどうするかという方向性程度は示しておくことが必要ではないか。このまま体制の移行が1年あるいは2年かかるとすると、宇宙政策委員会の中に部会を作るにしても、すぐに動かない時、ISAS に関わる学術関係の色々な人が疑心暗鬼というか、かなり不安定な状況に置かれることになる。これに関し、是非もう少し具体的に書き込んで方向性が見えるような形にするべき。従って、少し進んだ議論を一度して、それを踏まえた案として書くべきではないか。
- 【中須賀委員】 宇宙科学研究所と色々とお付き合いさせて頂く中で、特に急いでやらなければいけない1つの理由が、科学プロジェクトが滞留しているということ。もう上げていいようなプロジェクトが動かない。その理由の一つはイプシロンを含めたロケット等の戦略を自身で意思決定できないという点にある。そういうことも含めて言いたいのは、とにかく急いで、今後どうやるのかという体制づくり、計画をつくらないと、特にこれまで日本が世界に非常に良い成果を出してきた宇宙科学という分野における競争力を失うという危惧がある。是非急いで検討頂ければと思う。
- 【松本委員】 宇宙科学研究所について長い間関与させて頂き、実際研究もさせて頂いた。

学者、研究者の要望と技術を結び付けるということで、宇宙科学研究所は成果を上げてきたと思う。今、科学衛星プロジェクトというのは、10年、20年先を見て、順次、科学者コミュニティで議論をして詰めているが、それが滞留しているというのはその通り。きちんと道筋を見せないといけない。宇宙産業は大変重要だと思うが、そこだけが前面に出る文章にすると、益々、宇宙開発技術の基盤が、あるいは基盤を支える人たちの気持ちになえるというのは、その通りだと思う。ここの文章の書き方は非常に難しいが、具体性が見えないというのは感じるので、是非研究して、書き加えていくべき。

- 【薬師寺委員】 学術研究として独立を尊重した体制に移行するように速やかに決着すべき。昔の宇宙研がこうなったのは、予算がなかったので大学から出ていったわけであるが、大学との関係はすごく重要で、言い方は悪いが、この ISAS がきちんとやっていると、人材が原子力工学科みたいになってしまうとも言われる。若い人が新しい研究をこういう場できちんと予算も含めてやれるようにするのが、大学における宇宙科学、技術も含めた発展になる。ISAS の先生がおっしゃっていてショックを受けたのは、ここが沈滞すると日本の若い人が宇宙科学、航空宇宙に行かなくなってくるということ。日本の将来の宇宙の自在力にとって非常に重要な組織で、JAXA も勿論優秀な人が行っているが、ISAS は予算措置も、いわゆる大学との連携とか研究所との連携もきちんとやっていくと明確に役割を書き、予算措置もやるべきだと思う。
- 【片瀬審議官】 基本的方向として、ISAS の重要性、大学が連携して行っている研究開発の重要性を書かせて頂きたいと思う。もう一つお諮りしたいのは、具体的な体制をいつまでに誰が検討するのかということで、それは2つあると思う。この専門調査会で検討するという考え方と、宇宙政策委員会に委ねるという考え方がある。専門調査会では、年末までにこの体制の議論ということでやってきたが、少し時間を要してやる議論だと思うので、専門調査会でやる場合は年をまたいでやって頂くことになるかと思う。
- 【松本委員】 JAXA の宇宙科学研究所については、大学の研究者の共同利用機関としての機能を有すると明記されているが、実態は、他の大学共同利用機関よりも少し後退した感じがする。例えば国立大学協会に来られても、他にも大学共同利用機関があるが、ISAS はそこが後退したように見える。動きにくい構造になっているかと思う。これは、やはり文部科学省がそういうことを見ているので、その意見も十分聞いて頂きたい。
- 【上杉委員】 これを決めていくのは大変急がれるが、宇宙政策委員会ができてから検討すると、また1年程度かかってしまう。できればこの専門委員会でやって頂くのがいい。場合によっては検討グループを作って頂き、そこで詰めるというものではないか。
- 【松井座長代理】 やはり体制が変わる時、少なくとも ISAS はこうすべきだという具体的な形は示しておくべきだろうと思う。どうそれを進めるかは、全体でやるか WG かは別にして、来年にかけて早急に結論を出す方がいい。
- 【葛西座長】 今やっている話で、組織というのは、準天頂を上げるということを踏まえ、予算のスケジュールなどもあり、それに合わせて最低限は決めなければいけない。先ほ

ど事務局が言ったように、ISAS のあり方については、急ぐ問題ではあるが、それと全く同じ話ではないので、できるだけ早く決めなければいけないけれども、優先順位から言うと、窮迫したものを優先するということでよろしいか。

- 【松井座長代理】それは結構で、早急云々という意味ではそのとおりであるが、今の書き方では、学術コミュニティが困惑する。別にそんなに長くかからないし、もう一度か二度議論すれば、こういうことが望ましいという形の意見は収束すると思う。
- 【葛西座長】方法論がきちんとしていけばいいということか。
- 【松井座長代理】方法論がきちんとしていけばいい。JAXA がどうなるか分からないということで、ISAS がどうなるか分からないでは困ると思う。この辺がもう少し明確になればよくディテールまで決めるということではない。早急に結論が出ると思う。
- 【片瀬審議官】まず報告書案を作成してみて、残された課題で、かつ調査会で決めるべきものがあれば、年をまたいで検討するかどうか、座長にも御相談した上で皆様にお諮りしたい。
- 【松本委員】4のところで廃止すべきと書いてあるのは、私もこれでよいかと思うが、私の理解では宇宙開発委員会も色々な方々がおられて、宇宙科学を中心に現在やっている JAXA の所掌、産業まではいっていないが色々な事柄について随分大きな貢献をされてきたと思う。全然役に立ってないから早く止めろと言っているようにも聞こえたので、そうではないということをコメントしておきたい。
- 【葛西座長】あとはよろしいか。それでは、今日の議論を踏まえて、宇宙空間の開発利用の戦略的な推進体制の構築について、調査会の報告書案の作成を事務局でお願いしたい。そして、次回の専門調査会でそれを議論していただき、固められればと思う。

(3) 閉会

閉会に先立ち、大串内閣府大臣政務官より次の挨拶があった。

- 【大串政務官】政務官の大串です。今日は遅れて参り恐縮です。熱心な御議論を頂き感謝申し上げます。年末に向け、体制についてとりまとめ、政府全体として今日もお話があったように、戦略性ある形で宇宙の開発利用を行っていける体制を作るのが大きな課題で、御案内のように野田総理も宇宙の政策に関しては、宇宙基本法に自身大きくコミットしており、総理になってからもフロンティアという考え方から宇宙も念頭に置いた形でコミットしている。私たちも非常に重い課題として頑張っていかなければならないと思っている。私は、国家戦略担当の政務官として、検討会議で要望枠の精査もやっているが、その中でも各省から色々な宇宙関連予算の要望頂いており、政府全体の戦略性の中で各々の宇宙開発プロジェクトをどう位置づけるかという議論があった。予算の面からも課題を痛感した次第である。まずは推進体制の整備ということで、年末に向けてとりまとめを行ってまいりたい。どうか先生方にも、お時間のない中で大変恐縮であるが、お力を賜りますように改めて一言お願いさせて頂きたい。

(了)